

## 第3章 地域映像を活用した巡回展と関連講座

### 3-1 事業の開催概要と実施体制

本研究（「少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発」（2018-2022年度））の中間成果として、モデル地（士別市朝日町、名寄市智恵文地区・日進地区）がある、北海道北部地域内の博物館・公民館にて、2021年度に、巡回展事業を開催することを計画しました。

本稿では、青柳ら（2022）にデータを補完し、本事業の企画製作者としての参与観察、そして、巡回展開催館の担当者、及び巡回展の関連講座参加者対象のアンケートから、この事業の概要と成果について報告します。なお、本研究では、感染症拡大防止と、消毒等の対策業務の負担増に配慮し、展示室据え置き型の観覧者対象のアンケートは自粛し、上記の方法で評価に関わる情報を収集しました。

まず、展示会のタイトルは「探してみよう！ 地域のお宝」とし、地域学習の主要なテーマとなった、「冬山造材」、「緬羊の利用」、「馬を使った米づくり」をキーワードに、この学習プログラムを紹介することとしました。

また展示会は、認知症予防プログラム等をパネルで紹介し、地域のお宝（地域資源）に関連した映像アーカイブを展示するなど、本書の著者3人（青柳かつら、山下俊介、黄京性）の共同研究の成果を普及する内容としました。

さらに、上記3つのキーワードに関連した、開催館が所蔵する実物資料を合わせて展示可能としました。こうして、共通して巡回させる展示物と、開催地の実物資料とを、観覧者が比較でき、双方の観察を通じて、開催地の歴史・文化への関心を促す仕掛けとしました。合わせて希望する館には、映像視聴と参加者の談話を内容とする、関連講座を開催することとしました。

展示会の目的は、主に以下の3点としました。

- ①地域資源をわかりやすく学習する機会を提供する。
- ②開催地の歴史・文化のよさ、地域の魅力を再発見する機会を提供する。
- ③博物館での高齢者プログラム実践のノウハウを提供する。

巡回展開催の実施体制構築のため、道北地区博物館等連絡協議会事務局から協力を得て、展示会場となる開催館を募集しました。この結果、4館（士別市立博物館、名寄市北国博物館、美深町文化会館COM100、美瑛町郷土学館）の応募がありました。こうして、本研究の受託機関である北海道博物館（以下、道博）、そしてこの4つの開催館との共催で、展示会を実施する体制ができました。企画製作は、道博と、本書の著者3人を構成員とする「博物館を拠点とする地域資源活用研究会（以下、研究会）」が担うこととしました。

### 3-2 展示製作の概要とそこでの工夫

展示製作は、著者3人で役割分担して進め、パネルで使用する写真や映像は、モデル地の協力組織・機関や開催館等から資料提供を受けました。

パネルは、地域学習プログラム（担当：青柳）、映像アーカイブの楽しみかた（担当：山下）、認知症・フレイル予防プログラム（担当：黄）の内容で構成しました。「3世代で楽しめる展示」を意図し、小学校4年生程度の子どもにも理解しやすいように画像や図を多用し、クイズ形式なども盛り込んだ、平易で親しみやすい内容（7枚）を含む18枚としました。

映像展示は、山下が担当し、パネルに対応した4つのテーマ（冬山造材、緬羊の利用、馬を使った米づくり、映像アーカイブの楽しみかた）について、サイネージ4台で上映しました。映像は、モデル地で撮影した短編映像（写真1）、開催館の所蔵映像（写真2）等を活用しました（表1）。

表1 展示・関連講座で使用した映像

番号	タイトル	原資料タイトル	制作者	撮影地	撮影・製作年	所蔵者	使用場面
1	窓鋸の目立て	同左	青柳かつら	士別市朝日町	2014年	個人	展示
2	キンマに丸太をのせる	同左	青柳かつら	士別市朝日町	2014年	個人	展示
3	緬羊の飼育と利用	同左	青柳かつら	名寄市智恵文	2020年	個人	展示
4	羊毛から毛糸をつくる	同左	青柳かつら	士別市朝日町	2014年	個人	展示
5	馬耕	『稲物語』	風連町歴史民俗資料館運営協議会	風連町	1992年	名寄市北国博物館	展示
6	砕土（鬼ハロー）	『稲物語』	風連町歴史民俗資料館運営協議会	風連町	1992年	名寄市北国博物館	展示
7	地域の祭り（土別神社例大祭、パレード）	『緑豊かなまち』	士別市	士別市	1972年	士別市立博物館	展示・講座
8	地域の祭り（さくらまつり）	『伸びゆく土別』	不明	士別市	1950年代後半	士別市立博物館	展示・講座
9	昔の高齢者とは	同左	青柳かつら	名寄市智恵文・士別市朝日町	2020年	個人	展示・講座
10	直播栽培・タコ足	『稲物語』	風連町歴史民俗資料館運営協議会	風連町	1992年	名寄市北国博物館	講座
11	タコ足	『馬耕時代の農作業』	市立名寄図書館郷土資料室	名寄市日彰地区	1979年	名寄市北国博物館	講座
12	地域の祭り（朝日神社例大祭）	『水と緑の里あさひ』	朝日町	朝日町	1999年	朝日郷土資料室	講座
13	ばんえい大会 第6回農業まつり	同左	個人	美瑛町	1979年	美瑛町郷土学館	講座
14	ばんえい大会 美瑛町開基90周年	同左	個人	美瑛町	1989年	美瑛町郷土学館	講座
15	昔の高齢者とは（市立総合病院老人ホーム）	『緑豊かなまち』	士別市	士別市	1972年	士別市立博物館	講座
16	昔の高齢者とは（特養老人ホーム・美土里ハイツ）	『水と緑の里あさひ』	朝日町	朝日町	1999年	朝日郷土資料室	講座

注)映像の編集・字幕作成等は山下俊介が担当した。

映像は、ショットリストを作成したり、ナレーションや出演した高齢者の語りを書き起こして大きな文字サイズの字幕とするなど、ユニバーサル・デザインに配慮して、山下が再編集しました（写真3）。

関連講座は、タイトルを「比べる視点で 地域映像を愉しむサロン」とし、山下が担当して企画や開催館との調整を行いました。講座で上映した映像は、展示映像の他、その地域に残る映像を開催地毎に作り替えて使用するなどの工夫をしました。そして、幅広い世代が関心をもって視聴でき、映像に写る地域資源への理解を深めながら、撮影地の違いや現在との違い等を観点に、映像を見比べて楽しめる内容としました。

展示会と関連講座の広報は青柳が担当し、道博のHPとツイッター、研究会FB、研究会HPブログ（士別会場について山下執筆）のほか、開催館・協力機関の手配により、ちらし（写真4）、ポスター、開催館HPやニュースレター、自治体広報、地方紙記事等で告知しました。名寄市北国博物館による執筆協力を得て、本巡回展事業の紹介記事が、「道博協ニュース第129号」（北海道博物館協会2021年10月発行）に

掲載され、道内博物館園関係者に本事業のねらいや見どころをPRすることもできました。

これら一連の展示製作・講座準備作業は、情報共有・課題解決のため、黄が設定・管理するオンライン会議によって著者3人で議論しながら進行させました。著者3人は、札幌、函館、名寄と居住地が分散しており、加えて、これらは面会しての打ち合わせが困難なコロナ禍の中での作業となりましたが、この月1回程度のオンライン会議の開催と、メールの使用によって、関係者の協力もあり計画的に進行させることができました。

こうして、2021年度は、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館のため開催延期された名寄会場を除き3会場、2022年度は、この延期開催として名寄市の1会場、展示会（写真5～8）と関連講座（写真9～11）を開催できました（表2）。全ての会場で、開催館所蔵の実物資料・写真資料等を展示して、これら資料とパネルや展示映像と見比べながら楽しめる仕掛けが作られ、各館の所蔵コレクションの厚みを反映させた、個性ある展示が実現できました。

開催実績について、展示会の観覧者数、関連講座の参加人数は表2の通りです。展示会と講座開催にあたっては、開催館から、自治体内での広報協力のほか、三密回避、消毒の徹底など、感染症対策の協力を得ました。こうして、コロナ禍でありながら、道北地域の多くの皆様に展示観覧と講座参加をいただけました。

表2 巡回展の開催実績と開催館担当者アンケート結果

項目	開催館・展示会場			
	士別市立博物館	美深町文化会館COM100 (ギャラリー)	美瑛町郷土学館	名寄市北国博物館
1 会期	2021年 7/24～8/22(20日間)	10/9～10/26(18日間)	12/4～12/30(23日間)	2022年 5/13～6/7(22日間)
2 観覧者数	394人	340人	309人	707人
3 関連講座の開催日	8/7	開催なし	12/18	5/28
4 関連講座の参加者数	11人	-	13人	18人
5 アンケート結果				
5-1 観覧者の属性				
5-1-1 多かった年齢層	高齢者(概ね65歳以上)	高齢者(概ね65歳以上)	子ども(概ね20歳未満)	高齢者(概ね65歳以上)
5-1-2 多かった利用形態	一人、親子連れ ・地域資源をわかりやすく学習する機会を提供できた ・開催館所蔵資料を活用して展示づくりができた	一人 ・地域資源をわかりやすく学習する機会を提供できた ・開催館所蔵資料を活用して展示づくりができた	学校団体 ・開催館所蔵資料を活用して展示づくりができた ・博物館での高齢者プログラム実践のノウハウが得られた	一人、カップル・夫婦 ・地域資源をわかりやすく学習する機会を提供できた ・開催館所蔵資料を活用して展示づくりができた
5-2 展示会を開催してよかったこと	・開催地の歴史・文化のよさ、地域の魅力を再発見する機会を提供できた ・博物館での高齢者プログラム実践のノウハウが得られた			

### 3-3 事業の評価

#### 3-3-1 開催館担当者へのアンケート

開催館担当者へのアンケートでは、全館より4の回答が得られました（表2）。

まず、観覧者属性について、多かった年齢層は、士別・美深・名寄では「高齢者（概ね65歳以上）」、美瑛では「子ども（概ね20歳未満）」でした。

そして利用形態は、土別では、「一人」・「親子」で観覧、美深では、「一人」、美瑛では「学校団体」名寄では、「一人」・「カップル・夫婦」でした。回答に地域差は見られたものの、本展示会は「3世代で楽しめる」を意図しましたが、高齢者・夫婦・親子を含む老若世代から集客が得られました。

展示会を開催してよかったことについて、全館で「開催館所蔵資料を活用して展示づくりができた」が挙げられました。展示映像・講座映像を含め、テーマに合致する所蔵資料を、開催館の事情に合わせて柔軟に調整して紹介できたことが評価されました。

展示会の3つの事業目的との関連では、「地域資源をわかりやすく学習する機会を提供できた（目的①）」（3館）、「開催地の歴史・文化のよさ、地域の魅力を再発見する機会を提供できた（目的②）」（2館）、「博物館での高齢者プログラム実践のノウハウが得られた（目的③）」（2館）の回答が見られるなど、設定した事業目的について一定の達成が見られました。

### 3-3-2 講座参加者へのアンケート

講座参加者へのアンケートでは、土別11、美瑛13、名寄14の回答が得られました。

まず、回答者の属性について、性別は、2会場では「男性」（土別90.9%、美瑛76.9%）が多く、名寄では女性（57.1%）が多く、全体では「男性」が68.4%と多数を占めました（表3）。

年齢は、土別では「65～74歳」と「75～84歳」（各36.4%）、美瑛では「75～84歳」（46.2%）、次いで「64歳以下」（38.5%）、名寄では「64歳以下」（64.3%）が多数でした。全体では「64歳以下」（42.1%）が最多でした。

「64歳以下」の内訳は、土別は30代と40代が各1、美瑛では12歳以下の小学生が3、50代が2、名寄では、大学生1、40代1、50代6、60代1でした。なお土別では、本アンケートには回答しませんでした。小学生1人の講座参加があり、全会場で1～3人の小学生または大学生の参加がありました。

一方、65歳以上である高齢者比率は、土別で81.8%、美瑛で61.5%、名寄で35.7%、全体で57.9%となり、高齢化が見られましたが、美瑛、名寄では年齢層が比較的多様となっていました（表4）。講座は、高齢者と現役世代・若年世代とが対話・交流する、世代交流の機会となっていました。

「展示を見た」とした回答者（土別N=7、美瑛N=5、名寄N=9）について、展示の満足度は、土別では満足度4（42.9%）、美瑛では満足度3（40.0%）、名寄では満足度5（44.4%）、全体では満足度4（33.3%）が最多となりました。中程度以上の回答（満足度4-5の合計比率）は土別57.1%、美瑛40.0%、名寄77.8%、全体で61.9%を占めました（表5）。展示を見た人が少数だった会場は評価が低い傾向がみられるなど、会場毎のばらつきはありましたが、全体では過半数の高い評価が得られました。

展示のよかった点は、土別では、「昔のことを思い出して、心が元気になった」（57.1%）、次いで「地域のお宝（地域資源）や、その学習活動に関心をもった」（42.9%）が多数でした。美瑛では、「地域に残る映像の面白さや、楽しみかたがわかった」と「地域の歴史や文化のよさに気づき、愛着がわいた」（各80.0%）が最多でした。名寄では、「地域のお宝を利用する知恵や技、道具の使い方を学べた」（88.9%）が最多となりました。

全体では、「地域に残る映像の面白さや、楽しみかたがわかった」（61.9%）、「地域のお宝や、その学習活動に関心をもった」「地域のお宝を利用する知恵や技、道具の使い方を学べた」（各57.1%）が僅差で多数となりました（表6）。

結果を概観すると、観覧者に向けた、展示会の事業目的に関連する、「地域のお宝や、その学習活動

に関心をもった」「地域のお宝を利用する知恵や技、道具の使い方を学べた」（目的①に対応）は全体で57.1%、「地域の歴史や文化のよさに気づき、愛着がわいた」（目的②に対応）は同様に52.4%を占めました。

そして、本研究で製作・活用したコンテンツでもあり、展示や関連講座の軸の1つとした地域映像については、「地域に残る映像の面白さや、楽しかたがわかった」（61.9%）と過半数が回答する、高い評価となりました。コロナ禍の影響もあり、データ数は少数にとどまったものの、このように講座参加者の意識からも、事業目的の一定の達成が見られました。

表3 性別

会場区分 回答区分	士別市		美瑛町		名寄市		講座参加者全体	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
男性	10	90.9	10	76.9	6	42.9	26	68.4
女性	1	9.1	3	23.1	8	57.1	12	31.6
合計	11	100.0	13	100.0	14	100.0	38	100.0

表4 年齢

会場区分 回答区分	士別市		美瑛町		名寄市		講座参加者全体	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
64歳以下	2	18.2	5	38.5	9	64.3	16	42.1
65～74歳	4	36.4	2	15.4	3	21.4	9	23.7
75～84歳	4	36.4	6	46.2	1	7.1	11	28.9
85歳以上	1	9.1	0	0.0	1	7.1	2	5.3
合計	11	100.0	13	100.0	14	100.0	38	100.0

表5 展示の満足度

会場区分 回答区分	士別市		美瑛町		名寄市		講座参加者全体	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
満足度1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
満足度2	1	14.3	1	20.0	0	0.0	2	9.5
満足度3	2	28.6	2	40.0	2	22.2	6	28.6
満足度4	3	42.9	1	20.0	3	33.3	7	33.3
満足度5	1	14.3	1	20.0	4	44.4	6	28.6
合計	7	100.0	5	100.0	9	100.0	21	100.0

表6 展示のよかった点

会場区分 回答区分	士別市(N=7)		美瑛町(N=5)		名寄市(N=9)		講座参加者全体(N=21)	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
地域のお宝・地域学習に関心	3	42.9	2	40.0	7	77.8	12	57.1
利用する知恵や技を学習	2	28.6	2	40.0	8	88.9	12	57.1
地域文化に愛着	1	14.3	4	80.0	6	66.7	11	52.4
思い出で心が元気	4	57.1	2	40.0	2	22.2	8	38.1
地域のお宝を伝えたい意欲	1	14.3	1	20.0	2	22.2	4	19.0
昔の話を聞きたい意欲	1	14.3	2	40.0	5	55.6	8	38.1
映像の楽しみ方分かる	2	28.6	4	80.0	7	77.8	13	61.9
認知症予防プログラムを学習	1	14.3	1	20.0	0	0.0	2	9.5

注)回答総数は、士別市15、美瑛町18、名寄市37、全体70である。

1回答者あたりの選択肢回答数は、士別市2.1、美瑛町3.6、名寄市4.1、全体3.3である。

### 3-4 まとめと今後の課題

コロナ禍の中、事業運営を推進する協力体制が作られ、2021～2022年度に、道北地域4会場で、展示会と関連講座を開催できました。巡回展開催館担当者、および講座参加者アンケートの結果から、設定

した3つの事業目的について、一定の達成が見られました。事業の軸の一つとした地域映像の活用についても、講座参加者の過半数が回答する、高い評価が得られました。

今回、展示会と講座の開催を通じて、道北地域の多くの人に高齢者プログラム実践のノウハウを知っていただくことができました。今後も本書の公開・普及などを通じて、地域映像をはじめ、地域資源を活用したプログラムの企画・実践について、継続的にPRすることが課題です。

## 引用文献

青柳かつら・山下俊介・黄京性 2022. 高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅲ): 高齢者の地域知を活用した地域学習と巡回展事業. 北海道博物館研究紀要, 7: 47-66.



写真1 モデル地で撮影した短編映像



写真2 開催館の所蔵映像を活用した展示  
(名寄市北国博物館)[映像:『稲物語』名寄市北国博物館所蔵]

開催館所蔵の大型サイネージを使用。



写真3 高齢者の語りを大きな文字サイズの字幕にした映像



写真4 本巡回展ちらし





写真 5 士別会場の展示  
(2021 年度、士別市立博物館) [同館撮影]



写真 6 美深会場の展示(2021 年度、  
美深町文化会館 COM100 ギャラリー) [同館撮影]



写真 7 美瑛会場の展示  
(2021 年度、美瑛町郷土学館) [同館撮影]



写真 8 名寄会場の展示  
(2022 年度、名寄市北国博物館) [同館撮影]



写真 9 士別会場の関連講座(2021 年度、士別市  
民文化センター) [士別市立博物館撮影]



写真 10 美瑛会場の関連講座  
(2021 年度、美瑛町郷土学館) [同館撮影]



写真 11 名寄会場の関連講座  
(2022 年度、名寄市北国博物館) [同館撮影]

(北海道博物館 青柳かつら、北海道大学 水産科学研究所／総合博物館 山下俊介、名寄市立大学 保健福祉学部 黄京性)